

第4回北九州市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事概要

日 時 平成 27 年 6 月 4 日(木) 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所 ホテルクラウンパレス小倉 2 階 香梅の間

出席者（構成員）

岡田 知子 （西日本工業大学教授）

佐藤 竜司 （i6コンサルティンググループ株式会社 代表取締役）

勢一 智子 （西南学院大学 教授）

徳田 光弘 （九州工業大学准教授）

羽田野 隆士 （北九州商工会議所専務理事）

（敬称略・50音順）

1 開会

―市長挨拶―

2 議事

(1)北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

―「資料3」、「資料4」に基づいて事務局より説明―

(2) 討議

岡田構成員

- 高齢者の場合、社会参加の場を提供することが生きがいつくりにつながるので、素案に掲載している「市民との協働による公共インフラの点検」などは技術者が活躍できる場所として、積極的に参加していただきたい。
- 世界遺産登録の活用について、世界遺産に登録されたものはごくわずかであり、登録されていない関連施設もたくさんあるので、そういったものも大事にしていきたい。

佐藤構成員

- 施策を実行するためのP D C Aの回し方や5年後に行き着くまでのマイルストーンをしっかりと見える形で作ることが大切。
- 待機児童ゼロというのは、非常に重要な視点である。
- ロールモデルについて、東京との比較以外にも、福岡市との比較をしてはどうか。不都合な事実があるかもしれないが、北九州市に住んで福岡市に働きに行くようなこともアピールしてはどうか。
- オフィスビルの供給について、5,000~10,000人規模のインテリジェンスビルがあると、地方に本社機能を移転させるには都合がよい。

勢一構成員

- 全体的に情報が豊富になり、具体化してきたのでこれから本格的な実行の段階になった印象を持った。
- まち・ひと・しごとの仕組みについて、こういった施策がつながってそれぞれがどのような効果を生み出すかももう少しわかりやすくすればよい。
- 地方創生の基本方針から都市イメージ像を表すキーワードが見えてこないの、都市像、将来の北九州を表すキーワードが入ると市民に伝わりやすい。
- P D C Aでフォローアップするのは非常に重要な仕組みであるので、K P Iはしっかりと事業の評価、検証ができるような指標を設定していただきたい。特に、社会的要因の影響を受け、北九州市の努力だけで成果が出ないもの（空港の利用者数の増加など）もあるので、整理し、検証できる形にしたほうが良いのではないかと。
- 広域連携について、昨年度総務省の広域連携モデル事業を全国で唯一2件採択して実施しているの、もう少し具体的なメニューが入ってもよい。
- 特に、福岡県北東部地域市町との連携は、北九州市が中心となる都市圏域なので、連携している市町との協議も含め、双方の発展ができるような形の検討が必要。
- シビックプライドについては、地域全体でそれが培われていくような環境を市が積極的に整備するということが、愛着、自信、その地域に対する思いを醸成する意義があるが、具体的な施策は市の役割について十分に配慮した上で、進めてほしい。
- C C R Cについて、地域の中でのニーズ調査等を行い、そのニーズから地域のために活躍してくれる人材と呼び込みたい人材のマッチングができるような戦略を立てるのが良い方法。

徳田構成員

- 全体的な情報が豊富になり、充実した内容になっているので、全体をもう少し総体的に見えるようにすればよい。

羽田野構成員

- 本市の課題と成長戦略としての住みやすいまちについて、すべて網羅しており非常に良くできている印象だ。
- 北九州は地方創生の取り組みが非常に進んでおり、早く手を打っている感じがする。
- P D C Aをまわしていくと思うが、総合戦略を今からどうやって実現していくかが一番大事である。
- 高齢者の活用について、本市はリタイアした人たちが健康も兼ねて様々な分野で力を発揮しており、こうした面での言葉がもう少しあってもよい。
- 関門連携も当然のことながら、北九州経済圏ということでは東九州自動車道の開通などを契機とした京築、苅田との連携も大事だ。

大島構成員（欠席のため言付かった意見を事務局で代読）

- 住む場所は子育てする場所と言ってよいので、定住促進を図るのなら子育て施策を充実させ、教育の質を向上させるべき（学力を向上させる）。
- かつては地域が子どもを見守るつながりや仕組みがあったが、伝統的な地域が崩れてきている今はそれに代わる子育てネットワークやサロンなどの新しい仕組みが必要だ。
- 子育て、高齢化、女性問題などの複合的な課題に対応するコーディネーターが必要。社会教育主事を地域で活躍させる仕組みが欲しい。
- 高齢者が社会的な活動（ボランティアなど）に参加して「いきがい」を持つことが大切である。活動の結果として、健康寿命が伸びて若い世代の負担が減る。

籠田構成員（欠席のため言付かった意見を事務局で代読）

- ロールモデルの整理などはよくできており、また、戦略も数値目標などを工夫してビジュアル化すればなお良いものになる。
- 大学生のキャリアデザインに対する意識がとても低いので、大学でしっかり伝える必要がある。
- インターンシップはアルバイト的なことをさせるのではなく、きちんとした仕事をさせて意識づけを図る必要がある。
- 女性活躍が進むように短時間で成果を出す仕組みづくりなどについて、行政の支援が必要だ。

以上